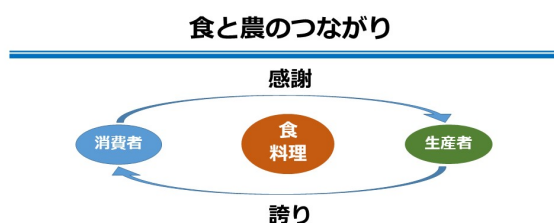


過去・現在・未来へつなげる食・農・農山村の豊かな暮らし  
 Rich living in food, agriculture, and agricultural and mountain villages  
 that connects the past, present, and future

下 浦 隆 裕  
 (SHIMOURA Takahiro)

I. はじめに

奈良県では、令和 2 年 4 月 1 日に「奈良県豊かな食と農の振興条例」を制定しました。食を通じ、消費者の方は「感謝」の念を、生産者の方は「誇り」の念を持って、お互いの繋がりを育み、健康で豊かな食生活と地域経済の発展を目指しています。



奈良県豊かな食と農の振興に関する条例  
 (令和 2 年 4 月 1 日施行)

★基本的な施策

- 1. 食の提供の充実
- 2. 食を楽しむ機会の拡大
- 3. 健康的な食生活の実現
- 4. 子どもの健全育成

お互いのつながりを大切にする気持ち

表 1 豊かな食と農の振興条例の概要

この条例の理念を基に、自然・環境・文化と共生しながら「食」や「楽」をキーワードに情報通信が人々の繋がりを創り、これからの文化として次世代に繋ぐことと、特に農山村の誰もが情報通信技術を実感でき実装できることを未来図として描きました。

II. 情報通信の状況と課題

総務省の調査によりますと 7 割以上の人々がスマートフォンを利用し、テレワークは、約 3 割程度の普及となっています。一方、コロナ感染症により新しい生活の価値が見直され、農山村地域の高速通信網のニーズが高まっています。都市でも農山村でも、どこにいても情報通信で繋がる環境として、特に農山村や離島などでは、「医療」や「防災」、「教育」、「食や農」などへの活用が飛躍的に進むものと考えられます。

しかしながら、通信環境は進んでも、老若男女の万人が使いこなせることが重要であ

り、どのように普及していくかも課題の 1 つです。そこで、未来の情報通信網の普及に合わせて、住民自らが魅力の発信により農山村の活性化が進むことをイメージしました。

III. 情報通信による新たなつながり

1. 情報通信で都市と農山村の距離を縮める

未来図の一つとして、オンラインシステムや動画配信システムにより農山村の魅力を発信し、共感・共有により都市（消費者）と農山村（生産者）の農山村情報ネットワーク化が進むことです。合わせて、農山村地域での情報通信網を使い、住民自らが情報通信技術を実感・実践・実装して使い、地域の魅力を発信しながら普及が進むことです。

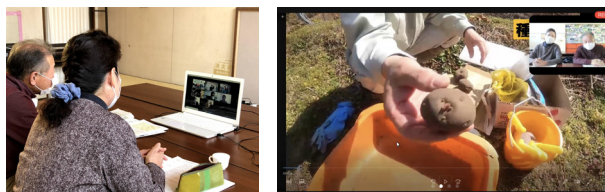


図 1 オンラインによる農業体験交流の様子

情報通信により人々の距離が縮まり、様々な応援・関わりの「カタチ」を構築できるのではないかと考えます。例えば次のようなことが考えられます。

- (1)食べて応援  
地域の食材（農産物・加工品）の購買応援
- (2)参加して応援  
地域の農作業、地域活動等への参加
- (3)働いて応援  
リモートワークやワーケーションによる半農半 X 活動
- (4)投稿して応援  
農山村と都市の繋がり、関わり、共感
- (5)新たな地域コミュニティーツール  
集会、座談会、行事、祭事のオンライン

2. 共有・共感できる仕掛け・人材育成

そのためには、人々の想いを緩やかにつなげる農山村情報ネットワークが重要と考えま

\* 奈良県豊かな食と農の振興課 Nara rich food and agriculture promotion section 12.農業土木教育・農業情報

す。オンラインなどの情報通信技術を使い、小グループで座談会や農業体験、料理教室などの農山村の魅力発信の実践を始め、その参加者がまた別のグループを作り実践しながら活用を広めて通信技術に慣れ使いこなします。これらを「ノウカル（農業と文化<カルチャー>の造語）活動」と呼び広めていければと考えています。

10 田んぼダムによる防災効果や農業体験、購買応援、木材利用（木製排水桝）など水田の多面的効果の理解が進むことや、水田の水管理や水質管理、暗渠排水の技術を活かした地下水の循環利用による「水田の水循環装置」15への新たな水田活用も想像しました。

#### IV. 10次産業化の提案

飛躍的に進む情報通信技術を特に農山村地域の誰もが理解・活用しながら普及するためには、キャッチフレーズも必要と考えます。

20そこで、1次：農業、2次：加工、3次：サービス、4次：情報通信による新しい文化や理念とし、「10次産業化」と称して推進することを提言したいと思います。

#### V. まとめ

25 情報通信網の普及により、農・食・農山村観光・農山村文化などの10次産業化による農山村の魅力・価値・役割を共有・共感・応援できる新たな関係構築による農山村地域の活性化を未来図に託しました。

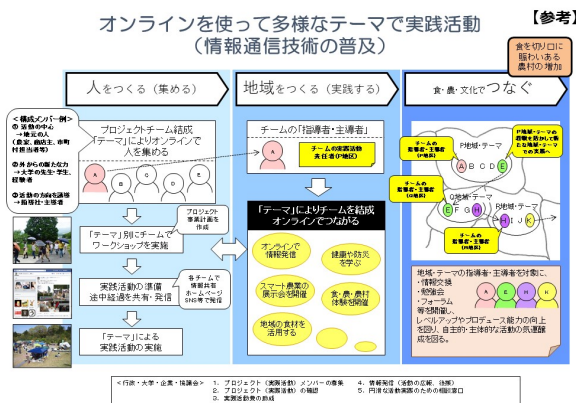


図2 人材育成の仕組み

### 3. 自然環境との共生や防災の関心を高める

30



図3 未来図